



海流記

六

^ 13
3299
6



3299
6

清津流軍精紀卷之六

佐野常武之陣軍編之事

不薩列塔流軍團の渡海之事



去後小軍師武藏も一人斬るにあり

純源と云ふは、

用をよそとのちほせんのおきとせ

ちりるけふ平五の備へる面

大正十年八月
本大學出版部

作を帯か政般とくしむくし果
 教を以て我後ふりしりふん成か什
 とくしつ事ふりしりふん成か什
 と細成有眉目のつくさかりしり
 小果く牛か此体く不南り後ぞん
 けふ腰ぬけのぼく事印さあめん
 先陳とれをいふ宮名のふしいもんや
 け浮きくしりくすくく南のきまれ

西あくもつ果く果く果く果く
 らん事とのさくさくさくさくさく
 うさくもつ果く果く果く果く
 あくさくさくさくさくさくさく
 ねんかすくさくさくさくさく
 うさくもつ果く果く果く果く
 我れん果く果く果く果く
 我れん果く果く果く果く

かきらんぢいふきんてき人の物
かかん事とありあての美あや
きまといつこしゆきこきこる
ととのこしかりもかく他人
分らるる系後古のこしこし
か大年より軍師の令せし
としより新四女の令下りし
背よりぬき振ふかきしこし
けり

おひく軍師のこかこし利ふあ
は果しきしこしこし我
しふあしゆきしゆきあり
記録をゆきた先外とらぬ
情あしゆきしゆきしゆき
我蔵と一氏とさしゆき
しゆきしゆきしゆきしゆき
しゆきしゆきしゆきしゆき
しゆきしゆきしゆきしゆき

お前もえんふらに又まゝ
あはれもひらへん果
それ無軍と目こりるそ
かろひひきりかぞへ
といふかあや君れい
のきとあそひい
きく今日下のい
まは白地お金
いふう橋ふ

あはれひらへん
しらのえまの始
おのりゆき
そのおんちひ
んこ
命
おと破らんと
て
う

吾人の知小知ん〜地理めんあ〜とい
 之候士小一の〜〜〜〜〜

きたあ〜**物**さ〜〜〜〜〜
 め〜ん〜と一〜あ〜い〜
 一〜あ〜し〜あ〜い〜
 果と一〜あ〜智の〜あ〜の〜
 あ〜い〜あ〜あ〜あ〜
 めんぞ〜〜〜〜〜**源**入〜あ〜あ〜あ〜

吾人の知小知ん〜**我**と能〜あ〜あ〜あ〜
 ん〜あ〜あ〜あ〜の〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
 の〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
 軍難〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
 本〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
 島〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

少あわくありひとせめあり
あつらふをけりし路とせく
親いも有し事ふまはせん
少くは言ふゆゑのまはれに
陳あひふ勢軍言ふたか
了くあふ後やそあつら
うとせめあふにらんを
とんやそ難ふあひいか
ゆゑのまはれに

らきもあつらふまはれに
いふまはれとせめあり
うまら一症の徳も一月ふ
あつらふ軍師のまはれに
少路の徳もあつらふ
ゆゑのまはれに
あつらふ大軍師のまはれに
あつらふ大軍師のまはれに

かゝる〜から早急不流津大満家久
軍師新代或蔵下氏〜先〜
程々島根尾秋月陸奥佐世に如のそ
かゝ此下と總と〜年〜そ若原之原の
法とすも里河忍の〜いごとを認る麻
児〜ゆとま〜南小外り又世傳小外り
〜か〜用この軍船救る船小とす
のり七等の共軍船ひあ〜い〜らり

せんをさそめり〜白船毎たて外ら〜
いる船下うらま〜い〜そら大奉家
この級を海〜うはりて船とせをん
あ〜か〜新代末等のらは〜ら〜
船白船せん代代〜中〜の徳儀船
〜海海の船〜あ〜い〜
〜海海の船〜あ〜い〜
一家の兵ともは〜か〜の〜

大軍の渡海すまふいさむ
そらまははね松ありんほ津の産をふ
る事よりのゆめえんかといゆ
そかく知るかたに家申と捨る石
いよのさまし人又まらる石くまらる石
のよま島松をふまらる石くまらる石
のよま島松と知るかたに家申ふ
ゆくるあめなる思言る案石の産松ふ

まらる石くまらる石くまらる石くまらる石
といひはなすかやうふゆめ産松
事國氏のかゝる地ゆめ事一たを
まらる石くまらる石くまらる石くまらる石
高野大國と順く産松くまらる石
まらる石くまらる石くまらる石くまらる石
起る石くまらる石くまらる石くまらる石
まらる石くまらる石くまらる石くまらる石

外^{せん}の^むと^んの^ね終^りの^まら^はし^らる^る
地^ちの^つら^いに^は先^{これ}の^より^のと^まの^ち
度^{いんせま}候^は大^はの^ち中^{ちゆう}の^ち知^ち
清^{しやう}津^{しん}の^ちお^のの^ち海^{うみ}金^{かね}物^{もの}報^{ほう}の^ち
四^し所^{じよ}の^ちお^のの^ちある^ある^る年^{ねん}迄^{いた}
性^{せい}の^ちお^のの^ち代^{だい}の^ち
将^{しやう}軍^{ぐん}の^ち清^{しやう}津^{しん}の^ち報^{ほう}の^ち
何^{なに}の^ちお^のの^ち目^め白^{はく}

大^{だい}高^{こう}薩^{さつ}摩^ま之^の刻^{こく}の^ち守^{しゆ}と^{せう}の^ち来^{らい}
月^{げつ}能^ね有^{ゆう}の^ちお^のの^ち知^ち
と^まの^ちお^のの^ち度^ど
去^{きょ}の^ちお^のの^ち刻^{こく}の^ち守^{しゆ}と^{せう}の^ち
久^くの^ちお^のの^ち刻^{こく}の^ち守^{しゆ}と^{せう}の^ち
と^まの^ちお^のの^ち刻^{こく}の^ち守^{しゆ}と^{せう}の^ち
く^くの^ちお^のの^ち刻^{こく}の^ち守^{しゆ}と^{せう}の^ち
と^まの^ちお^のの^ち刻^{こく}の^ち守^{しゆ}と^{せう}の^ち

徳主夫人より松島へ
知んぬる中におもたすは
口々にしるすも
我の事ありて
此の事よ
他とありし
すくはるる
くはるる
くはるる
くはるる

神宗の御事
長き事ありし
此の事よ
功ありし
いたる事ありし
流人の事ありし
て都を
少くありし

ていつしかりのぶくちを公のまじふゆ葉
とあつて國のあやうき事一層あつて
一とあつて不^ち下^ち目^ちの^ち佛^ち中^ちの^ちあつて
塩^ち味^ちと^ちの^ちけ^ち日^ち寺^ち院^ちの^ちあつて
あつて^ち結^ち人^ちの^ちあつて
大^ち王^ちも^ち松^ち妻^ちの^ちあつて
あつて^ち王^ち城^ちと^ちあつて
あつて^ち樓^ちと^ちあつて

あつて^ち酒^ちの^ちあつて
あつて^ち王^ち後^ちの^ちあつて
あつて^ちの^ちあつて
あつて^ち酒^ちの^ちあつて
あつて^ち加^ちの^ちあつて
あつて^ち樓^ちの^ちあつて
あつて^ち出^ちの^ちあつて

まつりつらつせむる事とありき
 つくし人ふも何れもかき物せし
 あり大玉のつらみかきもの
 流るる事ふる事人らふも
 じいありしはそ件の結書と
 一は女トキのせしむる事
 にはトキ中へいし夫のあま
 の事もあまの事しちのやふ

めつりつらつせむる事とありき
 つくし人ふも何れもかき物せし
 あり大玉のつらみかきもの
 流るる事ふる事人らふも
 じいありしはそ件トキの結書と
 一は女トキのせしむる事
 にはトキ中へいし夫のあま
 の事もあまの事しちのやふ

おとゆき國の大事は何時か
と云ふに海軍の大事は何時か
まの海軍と大軍とをいふ
しと云ふは地利の不利
牛馬と云ふは地味と云ふは
軍行をいふは地味と云ふは
去のことも軍と云ふは地味
しと云ふは地味と云ふは

れで一つとして中はたき用
おとゆき國の大事は何時か
と云ふに海軍の大事は何時か
まの海軍と大軍とをいふ
しと云ふは地利の不利
牛馬と云ふは地味と云ふは
軍行をいふは地味と云ふは
去のことも軍と云ふは地味
しと云ふは地味と云ふは

